



ドイツ、フィンランド

デジタル技術で博物館と教育に効果的学びを

遠藤 木里さん



日本文化発信イベント（中央）

2022年3月	静岡県立清水東高等学校 普通科 卒業
2022年4月～	静岡大学 情報学部
2024年9月～2025年8月	〈トビタテ！留学 JAPAN〉 ドイツ（交換留学） ブラウンシュヴァイク工科大学 コンピュータサイエンス学部 フィンランド（サマースクール） アアルト大学 プロダクトデザイン
帰国後	2025年10月 大学の留学イベントに登壇 2025年11月 トビタテ！留学 JAPAN 説明会に登壇
卒業後	卒業後は、日本の大学院に進学予定

プロジェクトで感じたデジタル技術の可能性

3歳までスウェーデンで生活していたこともありましたが、大きなきっかけとなったのが、大学での楽器のVR演奏体験プロジェクトへの参加です。このプロジェクトを通じて、XR技術を活用することで、稀少な収蔵品に直接手で触れることなく、演奏体験をしているかのような感覚を得られることに気づきました。また、この経験から、デジタルコンテンツの導入が進むドイツの博物館で先進的な事例を学び、さらにICT教育が発展しているフィンランドで導入に向けたプロセスを学びたいと思い、留学を決めました。

文化・教育 × デジタル技術を学ぶために

子供の頃スウェーデンで生活していたことから、ヨーロッパに留学したいという思いがありました。大学では文化・教育におけるデジタル技術の活用に興味を持ち、これを学ぶことができるドイツのブラウンシュヴァイク工科大学への留学を決めました。また、実践的な学びを多様な視点から深めたいと考えていた時に、フィンランドのアアルト大学のサマースクールを見つけ、ドイツ留学中の夏休みを利用して参加することを決めました。

奨学金の申請時には、国際系の先生に書類を何度も添削してもらい、ブラッシュアップを重ねました。

12か国70館を巡る博物館調査

大学ではドイツ語、英語、情報学についての講義を受講し、語学力の向上や情報学の

知識習得を目指しました。実践活動としては、ドイツを中心とした博物館の現地調査と、インタビュー調査を行いました。留学中は12か国70館の博物館を訪れ、実際に現地で活用されているデジタル技術について調査を行いました。いくつかの博物館ではインタビュー調査を行い、デジタル技術を導入するうえでの課題や現状についてうかがうことができました。

住居は、私を含む男女混合4人のシェアフラットでした。フラットメイトや友人たちと共有スペースでお互いの国のごはんを作りあったり、一緒にクリスマスマーケットに行ったりした経験はとても楽しく、貴重だったと感じています。

さらに深い学びのために大学院へ

卒業後は大学院に進学し、学部およびドイツ留学で培った文化資源のデジタル活用に関する知見を基に、文化・教育分野における生成AIの実践的活用を研究します。伝統芸能資料を対象に、生成AIを用いた資料分析・検索支援手法を検討し、研究・教育現場で有効な活用方法の提示を目指します。



ホームパーティー（向かって左から2番目）



博物館調査の様子

実践活動を通して身につけた力

博物館学芸員へのインタビューや12か国70館にわたる現地調査、日本文化発信イベントでのお茶や着物の紹介を通して、相手と対話するコミュニケーション力、現場で調査を行うフィールドワーク力、協力してイベントを成功させる力を身につけました。これらの姿勢は留学後も大学生活や研究において活かされています。

慎重さと思いきりのよさをバランスよく

契約や手続きといった重要なことは、自分が理解できるまで繰り返し確認することが大切だと思います。一方で、意見を出す、イベントに参加する、何かを主催するといった様々な挑戦はとにかくやってみることをお勧めします。慎重さと思いきりのよさをバランスよく使い分けて自分らしい留学にしてください。

私の語学勉強法

自分の苦手を把握する

留学前はドイツ語の勉強もしていましたが、現地大学では英語を使用することから、主に英語に力を入れていました。特に単語や文法に焦点を当て、定期的に試験を受験することで、モチベーションの維持と苦手分野の把握に努めました。また、スピーキングが苦手だったため、オンラインでの英会話を通して何度も繰り返し練習し、英会話に対するハードルを下げていきました。



英国

学びが溢れる学問の街
オックスフォード

宮野 翔太郎さん



有名な「溜息の橋」の前で

2017年3月	千葉県立土気高等学校 普通科 卒業
2017年4月～2022年3月	麗澤大学 外国語学部外国語学科 (現) 国際学部国際学科 国際交流・国際協力専攻
2018年8月～2019年5月	ウガンダ共和国 (休学留学) クンバ大学 社会科学部開発学学士
2022年10月～2024年9月	(JASSO海外留学支援制度 (大学院学位取得型)) 英国 (修士号取得) オックスフォード大学 国際開発学部開発学修士
帰国後	2026年より JICA 海外協力隊隊員としてガボンに派遣予定

アフリカとの偶然的出会い

高校卒業後の春季休業の際、英語を勉強するため、ふと一冊の本を手に取りました。その本はケニアの環境活動家ワンガリ・マータイ氏の自伝で、ケニアの貧困や紛争の現状が綴られていました。私はそれまで、大して勉学に励んだり、何か夢になって一つのことを成し遂げることのない墮落した生活を送っていました。これからは誰かの役に立つような人生を送りたい、そのために学びたいという思いが湧いてきました。私にとって、その手段が国連職員になること、そしてそれに必要だったのが、語学力と修士号でした。

世界最高学府を目指して

アフリカ研究と開発学に秀でており、学費がアメリカに比べて安いことから英国を選びました。たくさんある大学院の中で、世界最高学府と称され、個人で独立した研究プロジェクトを実施できるコースのあるオックスフォード大学を視野にいれ、準備を進めました。倍率が例年10倍近く、論文の提出や高い英語力を求められる厳しい入学審査だったため、大学在学中の時間のほとんど全てを費やし、情報収集と準備を進めました。また、奨学金や銀行の教育ローンに関する情報収集も、早い段階から開始しました。

文化の違いと終わらない課題

英国では、講義の後に、セミナーというディスカッションをベースとした形式の講座を行います。日本の大学ではあまりない経験でしたので、当初は自分の意見を述べるの

にとっても苦労しました。オックスフォード大学は学生と教授1対1での教育を重視しているため、卒論以外のレポート執筆時にもそれぞれ担当教授がつき、深い議論に付き合ってくれました。また、読まなければならない論文の量は凄まじく、毎週の課題に追われる日々を過ごしていました。一方、オックスフォードの学生は勉強とそれ以外の生活のメリハリがよく、課題や試験が終わると必ずパブへ出向き、ビールを片手に様々な学術的な議論やたわいもない話をしていたのを覚えています。歴史風情のあるパブで友人と交わす議論とビールは、何にも変え難い一生の思い出となりました。

目標の再確認

無事卒業し、やはり国連職員になりたいという思いが強く、この目標に向けて新たな一歩を踏み出しました。現在は、ガボンのJICA協力隊員候補として訓練を受けています。



パブでの一枚

フランス語で働く経験を積み、少しでも国連に近づくことができると期待し、精進してまいります。

人生で一生の経験

卒論執筆時に実施した研究プロジェクトで学んだ研究倫理や研究手法は、協力隊として派遣された際の社会問題解決において大いに役立つと考えています。また、大学院で築いた友人関係は現在も続いており、様々な意見交換を行い、就職活動に活かしています。

自炊は一石二鳥

よく「イギリスは飯が不味い」と言いますが、実は美味しいご飯もたくさんあります。ただ、美味しいご飯は値段が高いことがほとんどです。そこで、これから英国に留学を考えている皆さんには、ぜひ自炊してほしいと思います。生活費の節約と美味しいご飯の一石二鳥です。

私の語学勉強法

とにかく単語！

語学の勉強において最も重要なのは、覚えた単語の数だと考えています。単語がわからないと、相手が何を話しているのかもわからなければ、自分の意見を述べる際の表現の多様性にも欠けてしまいます。単語帳を使う際には、日本語の意味ではなく、英単語の方を隠して理解度チェックをしてみてください。難易度は上がりますが、単語練習のインプットと、日本語の意味から単語を引き出すアウトプットの両方を同時に行うことができます。



伝統ある図書館ラドクリフカメラ